

平和・人権  
社会・宗教  
政治と暮らし  
分かち合い

# 共生に生きる

No.66

発行 / 〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 / 瀬下幸弘 FAX093-622-1290

うづき  
卯月  
4  
2016

ハンセン病問題は  
終わっていない  
集団訴訟に (5頁)  
立ち上がった  
元患者の家族達

沖縄県民の58%が  
米軍普天間基地の  
辺野古移設に反対  
3月31日、沖縄県が発表

にしやま すずむ  
西山 進



## 誇りを持って 戦争法廃止を叫ぼう

アベ政治と  
許さず

自公は「安保廃止法案」を審議しない方針

3月30日

(安保法制を)「丁寧に説明する」と言った首相の言葉はどいつに

日本国憲法9条は、戦争の放棄と戦力及び交戦権を禁じています。日本が再び戦争の道を歩まないようにするためのものです。「憲」の字は、「ひとを抑制する」という意味で、時の政府がたとえ戦争を望んでも、できないように定めたものが日本国憲法なのです。このことは歴代の政府(自民党や自民党政府に加わった公明党)の公式見解でした。ところが昨年9月19日、これまでの見解から百八十度転換し、数の暴力によって戦争法(安保法制)を成立させてしまいました。決して許されるものではありません。憲法違反の法律だからです。またその法律の中身は、これまでみてきたように「戦闘地域での兵站活動」「米軍防護のための武器使用」「集団的自衛権行使」などいずれも憲法9条を踏みにじり、自衛隊が海外で武力行使できるものとなっています。だからこそ「戦争法廃止」を求める国民の声を背景に、民進党や共産党など野党5党は安保関連法を廃止する「平和安全法制整備法廃止法案」と「国際平和支援法廃止法案」を提出しましたが、自公はこの法案を審議しないとしました。どこまで国民をあざけるのでしょうか。しかしわたしたちは諦めません。戦争法廃止を叫ぶことは、平和の声であり、誇りある闘いだと思えます。傲慢な安倍政治を倒すまで叫び続けましょう。

### 4月の講演・集会案内

- ◆4月2日(土)下関アムネスティ(市民活動センター)…14時
- ◆4月3日(日)障がい者と一緒に歩こう会(雨天決行)  
畑貯水池白木橋駐車場11時スタート(弁当持参)
- ◆4月9日(土)2016年第1回憲法連続講座(北九憲法ネット)  
朝隈朱絵弁護士 戸畑生涯学習センター…14時
- ◆4月23日(土)キリスト者9条守りたい(西南KCC)…14時
- ◆4月29日(金)ハンセン病療養所菊池恵楓園訪問  
(問い合わせ電話 093-622-1289 瀬下まで)

世界人権宣言(谷川俊太郎訳)

#### 第15条 どこ国がいい?

人には、ある国の国民になる権利があり、またよその国の国民になる権利もあります。その権利を好きかってにとりあげられることはありません。

#### 4月10日(日):イチイチ祈りの会

場所は <sup>カトリック</sup>黒崎教会小聖堂、ミサ後～  
どなたでもお出でください。

# 沖縄・辺野古レポート(その3)

(元中学校教員 池村好順)

今回の訪問で、私はどうしても会いたい人がいました。映画「戦場ぬ止み」に登場するテント村のリーダー山城博治さんです。

その女性はとても親切でした。道路を横切ってテント村の中央テントまで私を案内してくれました。テントに近づくと、女性たちの明るい笑い声がテントの中から響いてきます。案内してくれた女性が声をかけると、作業服姿の男性が立ちあがって振り返りました。

山城 博治(やましろ ひろじ)さんです。ドキュメンタリー映画「戦場ぬ止み」をご覧になられた方はおわかりだと思いますが、ゲート前での座り込みの時、集団の前面に出て辺野古反対闘争を牽引し、常に機動隊への抗議の最先端に立ってきた人です。現地の人々の頼れるリーダーであり、沖縄の反戦運動の筋金入りの活動家です。映画のエンディングで、彼が重い病気に罹ったと字幕に流れました。そのことが大変気になっていたのです。

「今、病気のほうはどうなんですか。」と率直に訪ねました。山城さんはこう答えてくれました。「4月ですね、ここの皆さんに病気のことを話し現場を離れることを伝えました。でも今は何とか、10月から現場にまた復帰しましたよ…。でも、まだ病院に通いながらですけどね…。」と、笑顔で語ってくれました。山城さんの元気そうな様子に安心しました。彼の持ちまへの闘志で重い病を乗り越え、ここにまた戻って来ているように私には感じられました。山城さんに一つのお願いをしました。「すみません、一言八幡西革新懇へのみんなにメッセージをお願いできないでしょうか。」不躰なお願いでしたが、山城さんは快諾しビデオカメラの前に立ってくれました。

(山城さん) 「ええ、北九州の仲間の皆さん、こんにちは。今日は、ご挨拶をうけました池村さんから挨拶をとということです、お話しさせていただきます。このテントがゲート前テントです。みんな賑やかに元気で頑張っています。あそこがキャンプ・シュワブゲートです。あそこから入る車両を止めるために頑張っています。ここの女性たちはしなやかで男たちよりも元気で、いつも激励されなんとか頑張っています。



写真は1月8日の琉球新報ネットより  
キャンプシュワブ前の座り込み排除

す。また、全国から応援に来てくれています。沖縄・辺野古だけの問題ではなく、間違いなく全国の問題であろうと思います。ぜひ、ご理解いただきたいと思います。これからも沖縄から全国へ勇気を発信したいとかねがね思っています。なお私ごとですが、4月体調を崩し現場から離れていましたが10月1日より復帰し、めげずに頑張っています。永くなるであろう現場の取り組みですが、体調に注意しながら頑張っていきます。沖縄は元気です。北九州の皆さん、御一緒に頑張っていきましょう。」

三上監督の著書の中で、彼の病名が「悪性リンパ腫」だと知りました。緊迫する現場に連日通い続け、体を休めることなく永い間たたかっていたことが、彼の強靱な体に重い病を発症させたのだと思います。そして、その病を抱えながらテント村に通い続け、ゲート前での座り込みを継続していたことが想像されます。

なぜ、山城さんを含め多くの人々が座り込みをし、工事資材の搬入の車両を体をはって止めようとしているのでしょうか。

辺野古に米軍新基地を絶対に造らせないと命を賭して、非暴力の座り込みを展開する沖縄の人々の記憶の中に、決して忘れられない悲惨な一つの事件が鮮明に残っているのだと思います。

1995年9月4日、北部の小学校の少女が文房具店への買い物の帰りに、3人の米海兵隊員に襲われ暴行を受ける事件が発生しました。沖縄県民は怒りに震え、沖縄全土で抗議の声が一気に巻き起こりました。皆さんの記憶にあると思いますが、1955年には、嘉手納米軍基地の兵士によって、6歳の由美子ちゃんが暴行を受けたうえに殺害され、基地のゴミ捨て場に捨てられていたという悲惨な事件も起きています。

普天間基地返還の直接の契機となったのは、この悲惨な事件があったことを、沖縄県民は決して忘れてはいないのです。基地があるゆえに女性に対する蛮行が繰り返されている、このことに怒りが噴き上がり暴行事件の糾弾、基地の整理・縮小を求めて、8万5千人もの人々が集まり県民大会を開き、復帰闘争後、最大規模の大闘争が展開されました。その結果、96年普天間基地の返還が提案されましたが、しかし、これは「みせかけの返還」で、「代替施設を県内につくる」という移設条件付きの「返還」だったのです。そして、今、辺野古に代替施設として巨大な最新鋭米軍基地を、日米政府はつくろうとしているのです。

午後からの集会の冒頭で、ゲート前に座りこむ人々への「すさまじい暴力」が始まっていることを、山下さんは怒りをもって報告しました。(次回)

(その2)

2月11日(木) 西南韓国基督教会会館にて

在日2世の  
金 貞子さん  
キムチョンジャ



ヘイトスピーチの根は残ってしまうと話しました。その根はもっと深い日本人内部のアイデンティティに関わる部分につながっているとも。金さんは、それについて岡本教授の論文も引用し次のように話しました。

「小泉政権が始って、新自由政策や自己責任論が強調され、逆に社会的セーフティーネットが縮小されてしまったでしょう。自分で生きていかれなかったら、孤独死してしまうような、そういう世の中に変わってしまいましたね。結局、自分の目の前のことにしか関心をもたない市民を育成しているわけです。どうせ政治は変わらない。難しいことは偉い人に任せておけばいいという政治的無関心層がどんどん出てくるわけですね。こういう若い層や不安定な層は、在特会のようなセンセーショナルなものに足を引っ張られ、巻き込まれるんですね。今も水面下で、私たちの見えないところで、どんどんそういう層を取り込んでいるという話はよく聞きます。」

## 2、ヘイトスピーチの要因

そして金さんは、昨年マイノリティー国際宣教会議に参加した折、同志社大学院教授の浜 矩子さんの講演のことも紹介しました。

「浜 矩子さんは、アベノミクスがヘイトスピーチの大きな要因になっているとはっきりおっしゃいました。日本

のヘイトスピーチをもたらすものとせき止めるものは何か、という講演の中で、「ヘイトスピーチのない社会には融合がうまくいっている社会」だそうです。一方、「今の社会は分断の力学が働いている」と言われました。安倍政権の政策は「多様な雇用形態、多様な教育機会をつくり出しているときれいなことを言っていますが、これは錯覚させている」と言われました。教育もしかり、若者たちの分断を促しているということです。「障がい者は障がい者社会、エリートはエリート社会に。結局自分たち以外のものを互いに理解できない」ことがヘイトスピーチの背後にあるそうです。」

このように講演内容を紹介されたあと、浜 矩子さんの言われた「自助」と「公助」の点についても、金さんの思いも織り交ぜながら次のように語りました。

「安倍政治の大きな間違いは、「自助能力のある者を助けるのが公助、という間違いを堂々と皆さんにしていること」だと。公助の意味を完全に誤っていますよと言われ、「公助とは、自助能力のない人たちを助けることが公の仕事だ」と。それは、自分の力を発揮したくても発揮できない人たちを助けることが公助の働きであって、これが弱者救済の意味ですよ。ところが今の政府は、自助能力にたけた人を助けようとしている。

次回へ

## 《アムネスティ》下関通信 (2016/4)



昨年末から今日までの3ヵ月で、「慰安婦問題」はさらに国際化した感があります。2月にはグアテマラで戦時性暴力裁判初勝訴。3月には釜山にも立像の「少女像」建立。国際司法裁判所は性暴力犯罪の初裁判。

そして2月、ジュネーブでは、第63会期国連女性差別撤廃委員会=CEDAW(日本は当条約を1985年に批准。35ヶ国の専門委員で構成。各国の状況審査、報告、勧告を行う)。昨年末「日韓合意」で日韓政府は二度とこの問題を表面化させない「不可逆的最終結着」を強調しましたが、1/26、国際アムネスティはCEDAWの日本審査に向けて「提言書」を提出しました。以下はその一部です。



日本はサンフランシスコ条約と日韓協定で解決済としてきた。しかしこのいづれにも「性奴隷問題」は存在していない。国連の各委員会、各国議会同

様、アムネスティは「被害者に正義を」と訴え続けてきた。「日韓合意」は日本の責任を初めて認めたが、被害者不在のその内容に大多数の支援団体と被害者はさらに屈辱と苦悩を深めている。国際法上の犯罪は歴史に記録を残してゆくべき。中国、フィリピン、台湾等、アジア太平洋地域の異なる国籍の各国性奴隷被害者も同様の賠償を受ける権利がある。

3/7、CEDAWは対日審査を終え、57項目14頁にわたる、これまでより**厳しい勧告**を出しました(文中10カ所以上に「以前の勧告」という表現)。「日韓合意では日本の責任は果せていない」、が「慰安婦問題」における国際的見解です。

3/13、日本アムネスティ総会は、韓国アムネスティ総会と共同して、被害者ハルモニたちに、励ましのメッセージと署名を色紙4枚に作成、発送しました。連帯の小さな証しです。(2016.3.29 アムネ下関、山県)



たいがく はじめ  
大学 — 弁護士と学ぼう

## “原子力発電のこと” ②

原子力発電のことを考える前に、  
先ず「原子とはどういうものか」を  
考えてみることにしましょう。

古代ギリシャの哲学者デモクリトス（前460～370年）は、物質は細かく分解するとそれ以上分割できないものに突き当たる。その微小な粒子が「原子」で、ギリシャ語の「アトモス」、英語の「アトム」からできているものであると考えたのであります。

物質の構成体である元素の正体は「原子」であり、その原子の大きさは、1000万分の1mm（ミリメートル）ぐらいのものであるとされております。その原子の中心には、さらにその数万分の1mmの原子核（中心のこと）があり、その核には陽子と中性子があるのです。そして、その核の周りに電子が巡っているのであります。電子は、電極が陰極（マイナス極）と陽極（プラス極）があり、電圧をかけると、－（マイナス）極から＋（プラス）極へ流れるというのが電子であります。

私たちのよく知っている学者の中にドイツの物理学者でヴィルヘルム・レントゲン（1845～1923年）という人がおります。この人は、エックス線を発見した人です。負の極（陰極線）から電流を流すと放射線を出すのであります。この放射線を「エックス線」と名付けたのであります。このエックス線を人体に照射して背後に写真板を置き感光させると、骨がくっきりと映し出されるので、これを医学に応用したのです。しかし、このエックス線を人体へ照射されることによって、人間は最初に放射線の害を受けることになったのです。エックス線を人に照射すると、人間の人体に、①脱毛が起きたり②皮膚が赤く腫れたり③水ぶくれができたりします。さらにそれが進行すると、④皮膚がんを起こしたり⑤白血病を引き起こしたり⑥肝臓・胆嚢・胃がん等を起こしたりすることがわかったのであります。その後、エックス線以外の放射線にも、同様の害があることが証明されてきたのです。そのため、1920年代から放射線の害を防ぐために「線量基準」を設けるといふ国際的な動きが始まったのです。そして、1950年代になって、原子力のエネルギー利用が本格化するようになって「放射線防護」の体制がとられるようになったのであります。

先述しました「電子」を発見したのは、英国の物理学者ジョセフ・ジョン・トムソン（1856～1940年）であります。

トムソンが1897年に原子の中の電子の発見をしたことは、電子の探求の上で大きな出来事でした。しかも、トムソンが電子を発見した1897年には、英国のアーネスト・ラザフォード（1871～1937年）によって、 $\alpha$ 線や $\beta$ 線が発見され、その翌年の1898年にフランスのマリー・キュリー（1867～1934年）と夫のピエール・キュリー（1859～1906年）が放射性物質の「ラジウム」（Rw）を発見しているのであります。

トムソンは、レントゲンと同じように、「陰極線」の実験と研究を続けておりました。陰極線は、陰極から陽極に向かって真っ直ぐに進むが、これに「電場」や「磁場」をかけると曲がる。このかける電場や磁場の強さと陰極線の曲がり具合を詳細に検討した結果、この陰極線の正体が「マイナス電荷」を持つ「微粒子」であることが突き止められ、それに「電子」と名付けたのです。この、電子は陰極がどのような材質でできていても、そこから出る電子の「電荷」や「重さ」には変わりはありませんでした。そのため、電子は物質に含まれる基本的な「粒子」であると考えられたのです。

そもそも、物質はふつう電気的には「中性」であります。物質中に「マイナス」を持つ電子が含まれているなら、それを「打ち消すだけのプラス」の電荷を持つものが存在することになるのです。このプラスの電荷の正体については、20世紀に入ってから、最も軽い水素から電子を取り去った水素イオン、つまり水素の原子核である「陽子」がプラス電荷を持つものであることが明らかになったのであります。重い元素になるにつれて、含まれる陽子の数が増え、その陽子の数に見合うだけの電子が含まれて原子ができているというのです。

原子核を発見したのは、前述の英国のアーネスト・ラザフォードであります。ラザフォードは、1911年に「原子核」を発見しました。放射線の一種である $\alpha$ 粒子（実態はヘリウム）を金箔に当てる実験をしていた時、大半の $\alpha$ 粒子が軽々と金箔を通り抜けるのに、ごく一部の粒子が硬い芯に当たると跳ね返される現象を発見したのです。 $\alpha$ 粒子はプラス電荷を帯びており、それが跳ね返されるということはその跳ね返す相手の物質もプラス電荷を持っているものであると考えたのです。①マイナス電荷とプラス電荷なら相互に引き合う②同種の電荷なら反発しあうのであります。つまり、一部にプラス電荷と質量が集中して存在する以外に跳ね返すことは説明できないのです。このプラス電荷と質量の集中する中心が「原子核」といわれるものであります。その核の内部が陽子＋中性子です。

原子核はいくつかの「陽子」でできておりその原子

核の外側を陽子と同じ数の電子が回っていて、電氣的に中性を保っているものであります。ほとんどの元素の原子核は、陽子だけでできていると仮定すると、重さが足りないのです。つまり、核全体の重さから①陽子の数と重さ②電子の数と重さを差し引くと、③別の重さの物質の部分が出てくるのであります。

この問題を解決したのが英国の物理学者ジェームス・チャドウィックです。彼は、1932年に①電氣的に中性で②重さが陽子とほぼ同じ粒子である、③「中性子」を発見し、原子核は「陽子」と「中性子」で構成され、その周囲を陽子と同じ数の電子が巡っていると考えたのです。

そして、1930年代になり、原子核は「陽子」と「中性子」でできており、原子の基本的な性質を決めるのは「陽子」である。原子核の「陽子の数」を「原子番号」(Z)といい、陽子と中性子の数を合わ

せたものを「質量数」(A)と呼び、質量のほとんどを陽子と中性子で占めている。核外にある「電子」の質量は微々たるもので問題にされないものである。原子番号が同一の原子は同じ元素に属し、化学的性格は変わらない。しかし、同じ原子番号でも「質量数が異なる」もの=中性子の数が異なる原子が存在する。これを「同位元素」(アイソトープ)という。「同位元素」のうちで、放射線を出して、やがて他の元素に変わる性質を持ったものを「放射性同位元素」という。例えば、「ウラン→プルトニウム」へ。

放射線には、①アルファ線( $\alpha$ )②ベータ線( $\beta$ )③ガンマ線( $\gamma$ )④エックス線(X)⑤中性子線などの種類があり、これらの「放射線を出す能力」を「放射能」といい、放射線を出す「物質」を「放射性物質」ということが確認されてきたのであります。

(続く)



### 91才の誕生日会(亮)

3月27日(日)は朝から大忙し。部屋の飾り付け、食事の用意、司会のことば…。祖母が椅子に腰掛けるとみんなでハッピーバースデーを歌いました。参加出来なかった孫やひ孫達からもお祝いの電話があり、嬉しかったのでしょう。祖母は涙を流していました。これからも元気でいて下さいね。

### 読者レポート

### タクシーは選んでね(か)



母が卒寿を迎えました。一人暮らしですが、身の周りのことは自分でし、「元気よ」と言っています。でもこの前、黒崎からタクシーに乗って家に着いたら7千円くらい支払ったとのこと。話を聞くと、全然違う方向を運転手が勝手に走ったらしい。母いわく「年寄りは一人でタクシーに乗るもんじゃない。」

## 元ハンセン病患者家族の集団訴訟から、ハンセン病問題を振り返る

ハンセン病市民学会ニュース20号巻頭言より  
「親を憎む子の被害とは」

「3歳の時、父親が菊池恵楓園に入所させられたKさんは、父親の入所により、母親は離婚して実家に帰り、自らの親族のもとを転々とするという子ども時代を過ごしている。死んだと聞かされていた父親が生存しているとわかって、療養所を訪ねて面会した父親に対し『なんで、わたしはこういう人から生まれたんだろうって…』と語り、その時はじめて自分が子どもの頃から周囲から受けてきた冷たい仕打ちの意味がわかったと述懐したうえで、父親に対し『死ね』とか『あんたの子だけが、わたし、こういうめにあった』との言葉を投げつけたと振り返っている。… 血のつながった親と子が、このような形で引き裂かれてしまうということにこそ、ハンセン病隔離政策によって作り出された社会の中における差別・偏見による被害の本質がある。その意味で、この裁判は『無らい県運動』をは

じめとする、私たち社会の側の加害責任を問うものとなる。もちろん、ここでの『社会』とは抽象的なものではなく、同じ時代を生きてきた、私たち一人一人である。」(一部分のみ抜粋)

2001年に熊本地裁は、「らい予防法」は憲法違反との判決を出しました。今年はその判決から15年目となります。このとき裁かれたのは日本国家ですが、真の意味では国策に乗っかってハンセン病患者たちを差別した国会議員も司法界もマスコミも教育界・宗教界・地域住民など国民ほとんどが裁かれたといっても過言ではないのです。

「自分は差別をしていない」と思っても、差別してしまうシステムに組み込まれば、差別に加担し、助長することにつながります。誤った国策を見抜くには叡智が必要ですが、そのためにも人権を学ばねばならないでしょう。4月29日は15回目となる菊池恵楓園(熊本県にあるハンセン病国立療養所)を訪問します。ともに学んでみませんか。編集部

# 歴史問題にみる日中関係 ④

## 「慰安婦」に太陽を

(連続7回)

作家・ドキュメンタリー映画監督

班忠義さん

※文責／編集部



(…中国の最前線に小隊長として行った飛永さんは、現地訓練の最後に「人間を殺す首切り訓練」をさせられることに。いよいよ飛永さんの番となった…)

大隊長他みんな(彼が首を切るのを)待っている。……「殺さざるを得ない」という戦場の空気……それで彼は「首を切った」んです。その瞬間「自分は解放された気持ちになった」そうです。この「解放感」は人それぞれいろいろあると思いますが、飛永さんはそれ(首切り訓練を終えたこと)で、部下を指導する自信につながったというんです。力が出てきたというような証言でした。そういう人が戦後、日本に戻って(自分の犯した行為を)告白しなければ「ずっと苦しくて死ぬ前に幽霊が出てきて苦しむ」という人が旧軍人さんがいっぱいいます。

もうひとつ。旧軍人は、戦場でのレイプのこととか、そういうのはよく話します。それを話すことで、自分は悪と一線を引き解放感を得て人間に戻る…という職業軍人といっぱい会いました。ガイサンシーとその姉妹たちから私が託されたのは、「旧軍人と会ったら聞いてください。あなたに奥さんや娘さんがいるでしょう。なぜこんなことができたのか?と」。旧日本軍人に会ったらそれを聞きなさいと私は託されました。そして私は、その軍人と会ったんですね。…もう聞かなくていい。反省したんですね。もし反省していない人はこういう話を聞くこともできないと

思います。分けられたんですね。一方、中国のほうは被害がいっぱいあっても訴えるところもない。日本の裁判、10の「慰安婦」裁判の全部、明治時代の古い法律で被害者を裁くのはいいかどうか。日本の弁護士が手伝ってそれ以上は国単位で裁判をやらなくちゃならない。しかし、下関裁判はほんとうに素晴らしい判決で、文化的要素が高い。そういう歴史的な裁判でしたし素晴らしいことです。

「慰安婦」の話に戻りますけれども、今ほとんどは韓国(の話題が多い)ですね。昨日、木村先生とインドネシアと中国の「慰安婦」問題を話し合うチャンスがありました。そうすると、何となく「慰安婦」問題のメジャーは韓国で、中国とかインドネシアは隠れたような感じですね。なぜそうなったのかについて弁護士さんが言いました。戦後、韓国は民主的になって、韓国政府は民衆の要望に応えて、日本とこういう歴史問題の闘いをよくやったことがひとつにあったと。しかし私たちの中国政府は、「慰安婦」たちが亡くなることも残念ながらサポートしてくれなかった。孤独の死でした。政府の応援もない、日本政府からも相手にされない面もあって、こういう中でこの世から離れた。それが中国の現状なんです。また、戦争中の違いは、韓国は植民地支配ですが中国のほうは戦争です。これが違います。戦場になるとどうなるでしょう。私が会ったガイサンシーとその姉妹たち、80名の女性たちは山西省が半分以上を占めていますね。戦場でレイプされた人が多いからです。(続く)

### 編集後記

先月、自民党の大臣や議員の実に恥ずかしい低レベルな実態を書きました。まともな政党なら襟を正そうとするはず。ところが3月9日、衆議院外務委員会審議中、松島みどり元法相が居眠り・携帯いじり・読書にふける…その姿に厳しい批判があがっています。が、次は石破大臣が、法案の趣旨説明文を間違えたまま読み続ける珍事が起きました。名誉挽回とばかりに、乙武氏を参院選挙で擁立しようとしたが、不倫問題が報じられ見送りに。こんな自民党安倍政権を支える公明党、より自民に近づきたい大阪維新の会。真つ当な候補者を選んで国会議員にと思ふ。(瀬下)